

Generative AI（生成 AI：以下、GenAI）とエッジインテリジェンスを強化する新たなデジタル基盤の必要性

GenAI の台頭によって業界の構造が再編されつつあり、イノベーション、自動化、顧客エンゲージメントにおいて、前例のない機会が生まれている。



調査に回答した日本の企業のうち、約 84% は GenAI がすでに自社のビジネスに変革をもたらしている、または今後 18 か月以内に変革をもたらすと考えている。¹ また、日本の企業の 3 分の 2 は、AI ワークロードとアプリケーションがインフラストラクチャを変革させる最大の推進力であると回答している。²



別の調査では、日本企業の 38% が GenAI アプリケーションを本番環境に導入しており、52% が初期テストや概念実証（POC）を実施していることが明らかになった。¹ この結果は、コアからエッジまでのインフラストラクチャに GenAI が大きな影響を与えていることを示している。



エッジコンピューティングは次世代のデジタルイノベーションの最前線として関心を集めており、「エッジの進化」を推進している。それに伴い、レジリエンスを備え、将来を見据えたデジタルエコシステムを構築するための変革的なアプローチが求められている。

組織が GenAI の力を最大限に活用するには、ユーザーやアプリケーションに、より多くのインテリジェンスを提供できるよう、エッジコンピューティングを統合した最新のデジタル基盤が必要となる。

2025 年は、アジア太平洋地域の多くの企業において、エッジ IT に対する IT 支出が最も増加すると予測されている。その要因には、GenAI サービスを遠隔地や顧客に近づける必要性の高まりが挙げられ、それによって業界に特化したユースケースの可能性も拡大する。一方、日本はオンプレミスモデルからクラウドへの移行が最優先事項として挙げられ、エッジ IT の優先度は 6 位となっている。³

Sources: ¹ IDC's Future Enterprise Resiliency and Spending Survey, 2024, Wave 10 (Japan n = 50), ² IDC's Worldwide Digital Infrastructure Sentiment Survey, 2024, (Japan n = 161), ³ IDC's Future Enterprise Resiliency and Spending Survey, 2024, Wave 8 (APEJ n = 250)